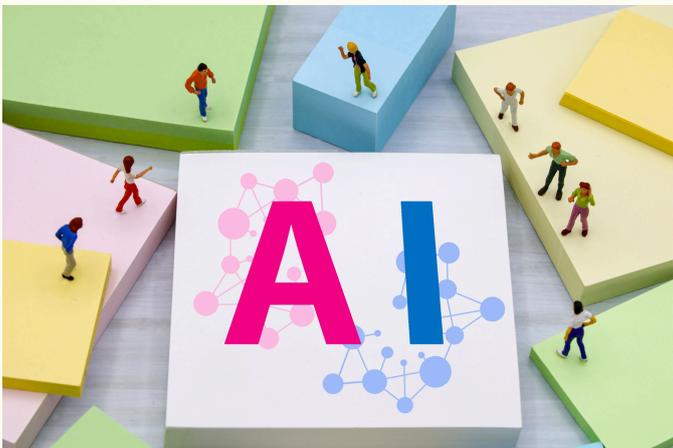


生成系AIを活用した品質管理教育とは

こんにちは、品質管理のご担当者様、教育担当者様、そしてISO 9000のご担当者様。日々の業務、本当にお疲れ様です。皆様が現場で直面されている課題や努力を、私たちは深く理解し、心から敬意を表しております。

さて、近年「生成系AI（Generative AI）」という言葉を目にする機会が増えてきました。この技術は、製造業における品質管理の分野でも革新的な変化をもたらしています。本日は、生成系AIを活用した品質管理教育の成功事例を3つご紹介し、皆様の企業における教育や研修の重要性についてお伝えしたいと思います。



1. 熟練技術者のノウハウ継承と教育の効率化

ある製造業の企業では、熟練技術者の作業手順やノウハウを生成系AIが学習し、トレーニング用データとして活用することで、新人技術者への教育をスムーズに行うことに成功しました。特に、熟練者の経験や知識をAIが解析し、具体的な作業手順や注意点を自動で提示するシステムを構築しました。これにより、新人技術者は実践的な知識を短期間で習得でき、教育担当者の負担も軽減されました。

2. 品質データの自動分析と改善提案

別の企業では、生成系AIを導入することで、顧客のアンケート結果やフィードバックから品質データの分析や改善を自動で行うシステムを開発しました。従来は手作業で行っていた膨大なデータの分析が、AIの活用により短時間で高精度に実施可能となり、製品の品質向上と顧客満足度の向上に大きく貢献しました。

3. 設計段階での品質チェックの自動化

さらに、ある企業では、AI技術「AEI」に生成系AIを融合させることで、3D-CADでの設計による品質チェックの自動化を実現しました。生成系AIが製品に関するCADデータ案を生成し、その案をAIシステム「AEI」が解析・自動テストを行います。このプロセスを繰り返すことで、設計段階での不具合を早期に検出・修正し、製品の品質向上と開発期間の短縮を達成しました。

これらの事例からも分かるように、生成系AIの活用は品質管理教育において非常に有効であり、企業の競争力強化に直結しています。しかし、技術の導入だけでなく、それを最大限に活用するための人材育成や社内研修が不可欠です。新しい技術を導入する際には、社員一人ひとりがその意義や活用方法を理解し、実践できる環境を整えることが重要です。

私たちは、製造業の現場で培われた知識と最新のAI技術を融合させた研修プログラムを提供しております。具体的には、以下のような内容をカバーしています。

- 生成系AIの基礎知識：AIの基本概念から最新の動向までを分かりやすく解説します。
- 品質管理へのAI適用方法：具体的な導入手順や活用事例を交え、実践的なノウハウを提供します。
- 社内でのAI活用推進のポイント：組織内でのAI活用を円滑に進めるための戦略や注意点を共有します。



これらの研修を通じて、社員の皆様が生成系AIを活用した品質管理の手法を習得し、日々の業務に活かしていただけることを目指しています。また、出張セミナーも承っておりますので、貴社のニーズや課題に合わせたカスタマイズ研修も可能です。お気軽にご相談ください。

最後になりますが、技術の進歩は日進月歩であり、それに対応するための学びも継続的に必要です。私たちは、皆様の学びと成長を全力でサポートいたします。共に未来の品質管理を築いていきましょう。

ご興味をお持ちいただけましたら、ぜひお問い合わせください。

(以下余白)

一般財団法人日本科学技術連盟
品質経営推進センター 営業・企画グループ

https://www.juse.jp/shanai_seminar/app/step1/

*社内セミナーに関するお問い合わせは、上記リンク先よりお願いいたします。

